

産学官連携ワークショップ

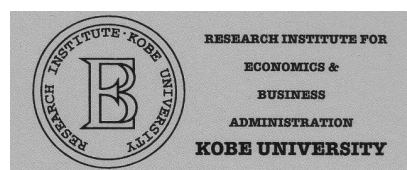
古くて新しい産学連携のかたち

～産学官連携による社会経済的な価値の創造～

産学の互恵的な連携、わかりあうためにしておきたいこと

平成16年2月13日(金)

神戸大学経済経営研究所
政策研究リエゾンセンター



RLC
Risk Liaison Center

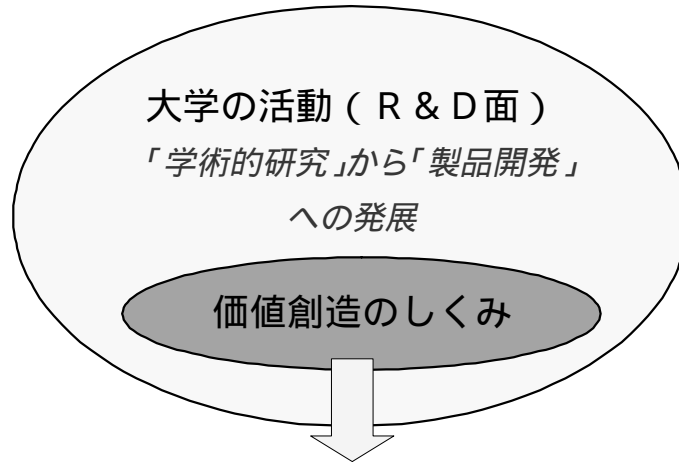
○問題意識

大学において行われる「活動」は社会における「経済的価値」として実現するのか、あるいはどうすれば実現できるのか

- 大学の使命とは？
- 「社会との関わりの重視」とそれによって実現する「経済的価値」との関係
- 企業行動を理解した上での、大学としての「戦略」と「組織マネジメント」

RLC
Risk Liaison Center

○検討にあたってのフレームワーク



「戦略」や「組織マネジメント」の現状は？
連携のための「制度」は機能しているか？

RLC
Riesch-Lindner Center

(ワークショップでの導入的考察)

産学連携型実用化R&D制度の効果

- 多様な産学連携の形態を「規格化」
- 「技術移転」による研究(開発)活動(能力)の「経済的価値化」の推進
- 「学術的価値」を第一とする従来の諸制度や社会的環境との融和、あるいは矛盾点の克服

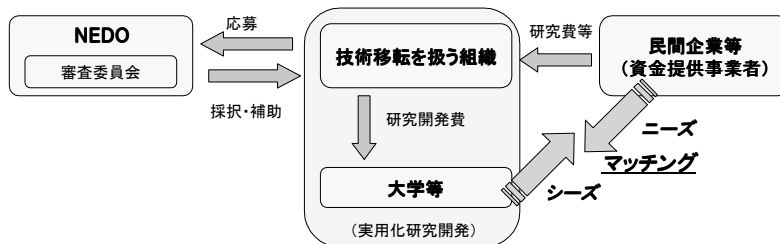
RLC
Riesch-Lindner Center

(事例分析)

マッチングファンド制度

(NEDO大学発事業創出実用化研究開発事業)

- ・公募(競争的資金)型研究開発
- ・技術移転組織(TLO)による成果及び事業管理



- ・技術の「市場価値化」を推進

RLC
Risk Liaison Center

○調査結果概要

(NEDO「産学連携型実用化研究開発の現状と展望について」2003年10月)

調査対象者

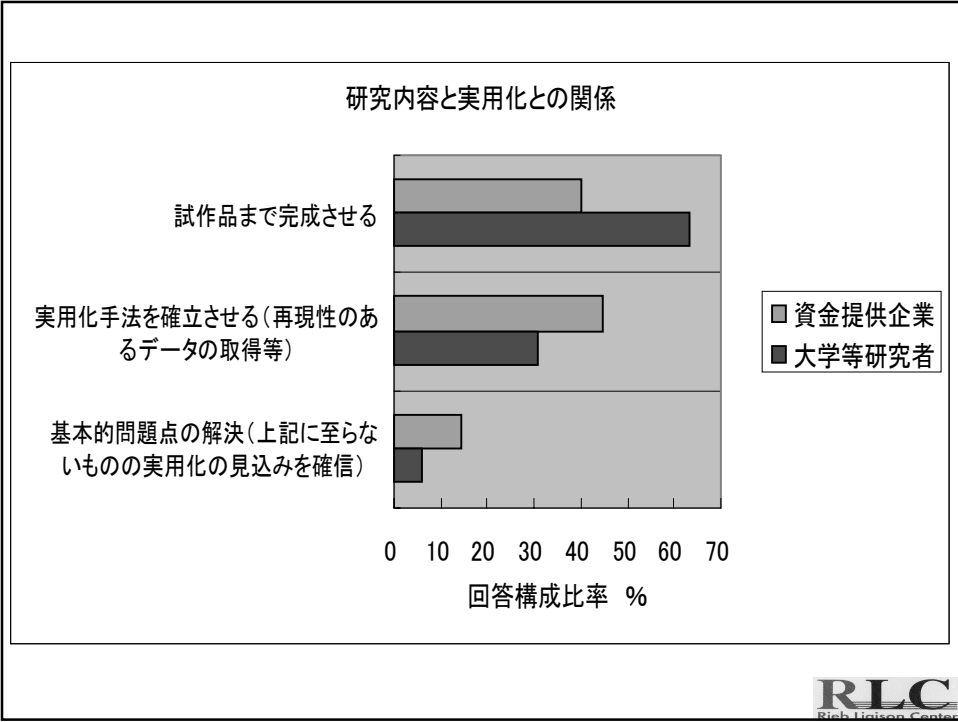
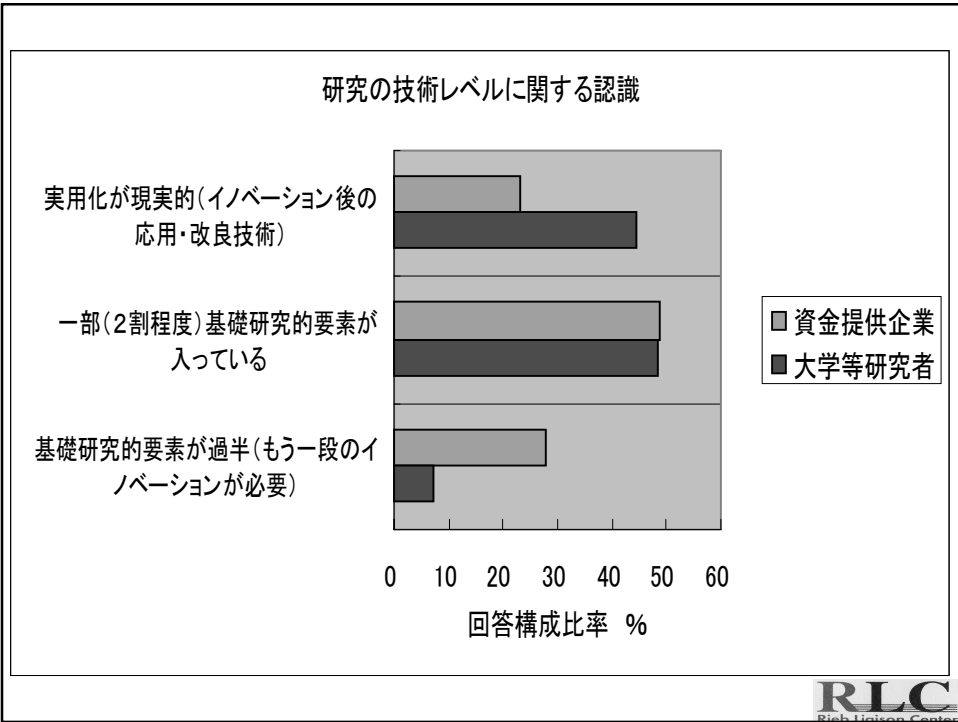
研究実施大学: 研究テーマ全般を把握する立場にある研究代表者

(回答数 149)

資金提供企業: 企業の経営戦略等を踏まえ研究成果を実際に活用する立場にある者

(回答数 125)

RLC
Risk Liaison Center



問 本制度には誰のイニシアチブで応募しましたか(複数回答可)

	資金提供企業	大学等研究者
企業	61	59
回答構成比率 %	49	40
TLO(又は大学の産学連携組織)	54	58
回答構成比率 %	43	39
研究者個人	60	103
回答構成比率 %	48	69

問 当該研究者とは過去に交流(研究資金の提供を行うもの)がありましたか(交流の種類については複数回答可)

	資金提供企業	大学等研究者
共同研究や受託研究をしたことがある	56	77
回答構成比率 %	45	52
奨学寄付金を出したことがある(企業)、受けたことがあ	33	39
回答構成比率 %	26	26
特段の交流はなかった	42	52
回答構成比率 %	34	35

問 本制度による研究では、企業単独に関する大学等の研究者との連携の程度はどのようなレベルにあると考えていますか

	資金提供企業	大学等研究者
企業の中核的な製品化戦略(またはR&D戦略)を開示している(企業)、理解している(大学等)	21	48
回答構成比率 %	17	32
本研究の成果レベルでの「製品化」イメージを共有している	90	96
回答構成比率 %	72	65
戦略の共有というよりは企業からの具体的な指示・要望に添って研究を行う側面が強い(契約に基づき限定的な関	11	3
回答構成比率 %	9	2

問 本制度によるR&D(研究開始から終了までの期間に限る)をどの程度まで大学等の研究に依存していますか(自社内での並行研究の有無等)

70~100%		32
	回答構成比率 %	26
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	29
	非中小企業	23
50%程度		55
	回答構成比率 %	44
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	50
	非中小企業	39
30%未満		34
	回答構成比率 %	27
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	20
	非中小企業	33

RLC
Risk Liaison Center

問 大学等での所要研究費負担額の妥当性をどう考えていますか

費用対効果として満足している		99
	回答構成比率 %	79
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	73
	非中小企業	84
全て自社開発とした場合よりややコスト高感がある		13
	回答構成比率 %	10
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	13
	非中小企業	9
あまり妥当だと思わない(高すぎる)		11
	回答構成比率 %	9
(※企業規模別回答構成比率 %)	中小企業	14
	非中小企業	4

RLC
Risk Liaison Center

大学等研究者と資金提供企業との認識一致の程度

大学等・企業両方から回答のあったテーマ(※有効回答)について、研究代表者(もしくはそれに準じる者)の回答と企業の回答が一致したものの比率(%)

		有効回答数※	研究の技術レベルに関する認識	研究内容と実用化との関係	事業参加のイニシアチブ(複数回答のパターンが完全一致したものの)	企業戦略との連携の程度
全体		105	42	54	33	66
技術分野別	ライフサイエンス	27	48	54	46	69
	ナノテク・材料	21	38	38	24	57
	情報通信	14	14	57	21	57
	環境	9	44	56	22	67
	製造技術	28	46	68	43	71
	エネルギー	6	67	33	0	83
企業規模別	中小企業	49	43	55	24	67
	非中小企業	56	41	51	40	65

RLC
Risk Liaison Center

	特許取得見込み数(基本)	特許取得見込み数(周辺)	特許取得見込み数(合計)	企業戦略との連携・開示		
				(大学側)	(企業側)	
全体 (n=90)	1.04	1.87	2.91	(中核的) (製品レベル) ※中核/製品	30 46 0.52	13 46 0.28
特許なし (n=21)	1.00	1.57	2.57	(中核的) (製品レベル) ※中核/製品	5 16 0.31	1 9 0.11
特許あり (n=69)	1.06	1.96	3.01	(中核的) (製品レベル) ※中核/製品	25 42 0.60	12 37 0.32
交流なし (n=27)	1.00	1.78	2.78	(中核的) (製品レベル) ※中核/製品	11 16 0.69	2 13 0.15
交流あり (n=63)	1.06	1.90	2.97	(中核的) (製品レベル) ※中核/製品	19 42 0.45	11 33 0.33

RLC
Risk Liaison Center

○マッチングファンド制度の効果に見る 産学連携型実用化開発の現状と展望

- 大学側が「実用化に直結する技術シーズの移転」を考えていても、企業側は「個別製品レベルの問題解決のための(一部基礎的な)研究」を考えている。
- TLOの主導による「技術移転」はまだ十分に実現しておらず、今後、TLOの機能・役割の明確化と、その影響を注視する必要がある。
- 一方で、従来にはなかった大学と企業の組み合わせが生み出され、新制度による産学連携の広がりが期待される。

RLC
Rish Ligon Center

- 大学研究者の知的財産(特許等)に対する認識は、企業との連携活動にも何らかの効果・影響を及ぼすものとなっている
- 従来は交流関係のなかった企業との連携活動を開始する場合、大学研究者は相手企業の戦略の理解に努めていることが伺える

産学連携(R&D)における留意点

- ・連携活動における意思疎通(契約のみで規定しきれない部分)
- ・知的財産の取り扱い(連携活動にどう位置づけるのか)

RLC
Rish Ligon Center

産学連携活動の分析の視点(組織とマネジメント)

- ・シーズ中心によるアプローチの発展可能性
大学の研究者の既存のアイデアを実用化・
製品化していくことがどの程度まで可能か
- ・ボトムアップによるアプローチの限界性
現場の研究者レベルでの活動を企業活動
(産学連携活動)として確立していくことが
どの程度まで可能か

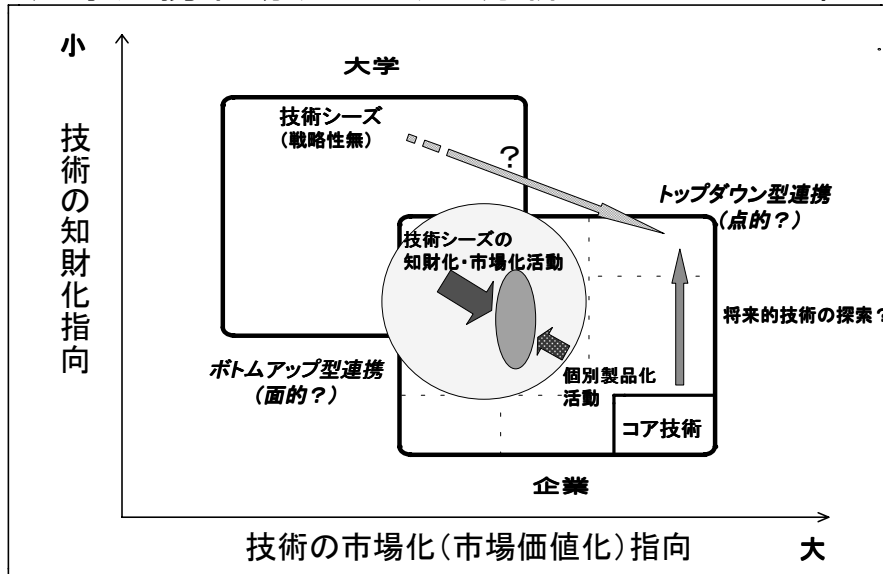
RLC
Rish, Linton, Center

産学連携活動の分析の視点(「価値創造」の出発点)

- ・技術シーズの知財化指向
「知的財産」としての完成度(確保)が高いこ
とが連携戦略にどのような影響を及ぼすか
- ・技術シーズの市場(価値化)指向
「(潜在的)市場価値」が高いほど、高度な
連携戦略が必要となるのではないか

RLC
Rish, Linton, Center

産学連携活動(R&D)の分析フレームの一案



RLC
Rieb-Liaison Center

本発表の内容についてのお問い合わせ等は
下記までお願いします。

経済経営研究所政策研究リエゾンセンター
森田 弘一
morita@rieb.kobe-u.ac.jp

RLC
Rieb-Liaison Center